

「挑戦と希望の地域支援・訪問看護ステーションと他機関との連携支援」の 感想レポート

精神科病棟看護師 矢野 秀蔵

今回、イベントを開催するにあたり企画の段階から半年近く関わることができた。

イベントを企画する立場に立つことは私自身も初めての体験であり、今後に活かしていきたいと思える良い機会となった。

企画の目的でもある、精神科訪問看護のありかたをイベントに参加される方々と共有していくか、という観点で毎月のミーティング・打ち合わせに臨んできた。

実例をもとに映像で伝える、という試みは映像をつくるという点で難しさはある反面、参加された方々と同じものを見ることができるという点で、参加者にとって言葉だけによる伝達よりも現場の雰囲気や当事者の生の言葉の受け止め方が、まるで自身がその立場にいる様に受け止めることができる体験を重ねることができる素晴らしい手段であると参加者席からイベントを見ていて感じ取ることができた。

イベント後の懇親会においても、普段であれば中々重なり合うことのない方々との出会いやコミュニケーションによる情報交換は、自身にとって、精神科医療を含む地域医療への広がりを感じることであった。

今回のイベントで各々が感じた反省を、今後に活かしていきたいブラッシュアップを重ねていきたいと感じた。